

BUSINESS REPORT

第95期 報告書

2017年4月1日 ▶ 2018年3月31日



いつも となりに おいしいキョクヨー





代表取締役会長
多田 久樹

代表取締役社長
今井 賢司

企業理念

人間尊重を経営の基本に、健康で心豊かな生活と食文化に貢献し社会とともに成長することを目指します。

ご挨拶

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第95期(2018年3月期)報告書をお届けいたします。

この一年、中期経営計画「バリューアップ・キョクヨー2018」の最終年度として、食品事業の収益改善、完全養殖クロマグロの出荷開始のほか、海外においては米国のニューヨークに販売拠点を新たに設立するなど、国内外での市場拡大を積極的に行い、収益の安定化を図ってまいりました。

そして4月からは「魚を中心とした総合食品会社として、高収益構造への転換をはかり、資源、環境、労働などの社会的要請を踏まえ、事業のウイングの拡大と時間価値の提供により企業価値の向上を目指す」ことを基本方針に、新中期経営計画「Change Kyokuyo 2021」をスタートさせております。今後は「ESG重視の事業活動」を通じて、「拡大」「強化」「均衡」の各戦略に取り組むことで消費者の皆様へのニーズにお応えし、より良い商品をお届けしてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き多大なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2018年6月

「バリューアップ・キョクヨー2018」から「Change Kyokuyo 2021」に向けて

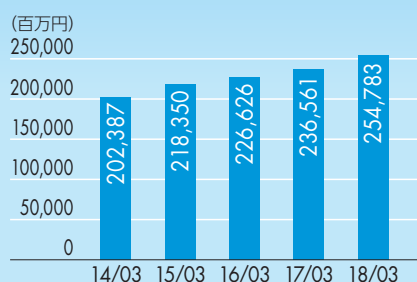
当期(2018年3月期)の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や株価上昇など、景気は緩やかな回復がみられるものの、米国の政治動向や中東及びアジア地域における地政学的リスクの高まりなどによる世界の实体经济に及ぼす影響が懸念され、依然として不透明な状況が続いております。

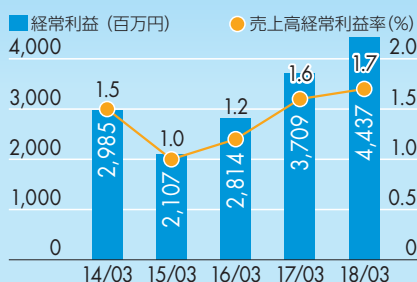
水産・食品業界におきましては、食の安心・安全に対する消費者の関心は高く、さらに少子高齢化による国内マーケット環境の変化や人手不足による労働コスト・物流コストの上昇に加え、世界的な水産物需要の増大による買付コストの上昇など、厳しい状況は続いております。

主な連結財務指標

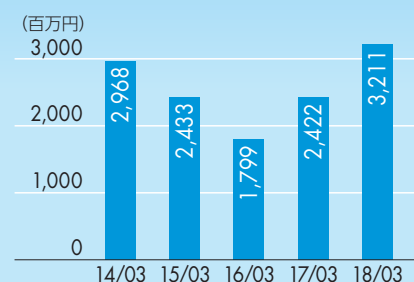
売上高



経常利益/売上高経常利益率



親会社株主に帰属する当期純利益



このような状況のもとで、中期経営計画『バリューアップ・キョクヨー2018』の最終年度として、『魚に強い総合食品会社として、収益基盤の安定と変化への対応力を高め、新たな価値を創造する企業を目指す』ことを基本方針とし、目標達成に向けて取り組んでまいりました。

その結果、当社グループの売上高は2,547億83百万円(前期比7.7%増)、営業利益は40億66百万円(前期比9.2%増)、経常利益は44億37百万円(前期比19.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は32億11百万円(前期比32.5%増)となりました。

各セグメントの状況は以下のとおりです。

水産商事セグメントでは、鮭・鱒・カニ・エビ・北洋魚など主要魚種の販売が順調に推移したほか、海外子会社においても水産物販売が好調に推移したことにより、売上は前期を上回りました。一方、年末商戦以降、市況悪化により鮭・鱒・エビ・北洋魚などにおいて価格調整が発生し、利益は前期を下回りました。

冷凍食品セグメントでは、寿司種を中心とした生食用商品及び「だんごり上手」シリーズなどの加熱用商品の拡販に努め、水産フライ類やカニ風味かまぼこの販売が伸びました。また、「うま塩えびから」などの塩釜工場製品の販売が順調に推移したこと、工場の生産数量も伸び、工場収

支が改善しました。この結果、売上・利益ともに前期を上回りました。

常温食品セグメントでは、魚価高による製品コストアップなど厳しい環境が続くなか、サバ缶詰を中心に魚缶詰の販売が伸びました。また、珍味製品については、イカ原料の価格高騰が続くなか、価格改定や規格変更などのコストアップ対策に取り組みました。この結果、売上・利益ともに前期を上回りました。

物流サービスセグメントでは、前期に冷蔵運搬船事業から撤退したことにより、売上は前期を下回りましたが、冷蔵倉庫事業において、在庫貨物の確保を図り、営業力強化と事業の効率化に努めた結果、利益は前期を上回りました。

鯉・鮪セグメントでは、本鮪、インド鮪などの脂物製品及びキハダ、バチなどの赤身製品の販売に注力し、ネギトロやカツオタタキなど加工品の販売も伸びました。養殖事業は、漁場や漁獲規制が厳しくなるなか、天然種苗の確保を図るとともに、11月には完全養殖クロマグロ「本鮪の極つなぐ<TUNAGU>」の初出荷を行いました。海外まき網事業は、入漁料の高止まりや修繕費などの経費増があったものの、水揚げ数量の確保に努めたことや魚価が高値で推移したことより収支が大きく改善しました。この結果、売上・利益ともに前期を上回りました。

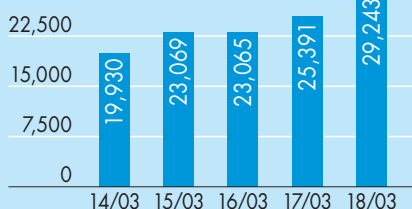
次期(2019年3月期)の計画目標

次期におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が見込まれるものの、世界経済の不確実性など先行きは不透明な状況にあります。水産・食品業界におきましても、原料価格の高止まり、人手不足による労働コストの上昇や企業間競争の激化など、引き続き厳しい経営環境が想定されます。

このような状況のもと、当社グループは新中期経営計画『Change Kyokuyo 2021』の初年度をスタートさせ、目標達成に向けて取り組んでまいります。次期の連結業績は、売上高2,670億円、営業利益48億円、経常利益46億円、親会社株主に帰属する当期純利益32億円を見込んでおります。

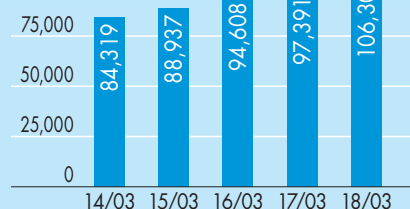
純資産

(百万円)
30,000

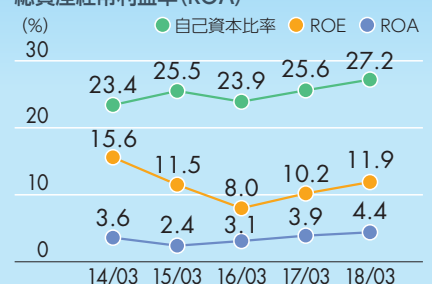


総資産

(百万円)
100,000



自己資本比率/自己資本利益率(ROE)/ 総資産経常利益率(ROA)



TOPICS

2017.4-2018.3

カヌースラローム・
ジャパンカップに冠協賛

公益社団法人 日本カヌー連盟のオフィシャルパートナーとして、カヌースラローム・ジャパンカップ「キョクヨーシリーズ」全7戦に冠協賛いたしました。

(株)極洋、創立80周年

当社は2017年9月9日に創立80周年を迎えました。これもひとえに、お客様のご愛顧、株主の皆様、関係者の皆様のご支援の賜物と心より御礼申し上げます。

生産工程の“見える化”
に向けAIを活用した
実証実験の実施を発表

AIを活用し、簡易な構成で実装できる、水産加工品の生産工程の“見える化”技術の開発を目指した実験により、生産効率向上につながる効果が実証できました。

Kyokuyo
America Corporation
NY営業所を開設

生食用食品を中心に、北米西海岸のロサンゼルス営業所と連携しながら、全米での当社製品の販売拡大に向けて、東海岸のニューヨークに営業所を新設いたしました。

業績連動型株式
報酬制度の導入を決定

役員報酬制度の見直しを行い、当社第94回定時株主総会において、取締役(社外取締役を除く)を対象とした、新しい業績連動型株式報酬制度の導入を決議いたしました。

完全養殖
クロマグロの出荷開始

(株)極洋とフィード・ワン(株)の合併会社である極洋フィードワンマリン(株)は、成魚となった完全養殖クロマグロを「本鮪の極つなぐ <TUNAGU>」と名付け、出荷を開始いたしました。

4月

6月

9月

11月

2月

2017年

2018年

5月

7月 8月

10月

12月 1月

3月

CSR

環境保全・社会貢献活動

「海洋管理のための水産事業：

Seafood Business for Ocean Stewardship (略称SeaBOS)」への参加

2017年4月、スウェーデンのヴィクトリア皇太子殿下主催の夕食会に招かれた多田会長は、SeaBOSへの参加企業として、当社を代表してサインしました。

SeaBOSは世界の大手水産企業がリーダーとなり、世界の海洋や水産業を持続的に開発し、海洋、漁業資源だけではなく、人類全体や地球環境に貢献するために協力して方向性を模索するためのもので、現在、当社を含め国内外10社が参加しています。

また、SeaBOSは国連が提唱する「持続的な開発目標：Sustainable Development Goals (略称SDGs)」への貢献、特に14番目の目標である「海洋資源の持続的な開発と利用」への貢献も目的としています。



署名する多田会長

Photo by Antony Tran

5月にストックホルムで開かれた会議では、

1. 透明性とトレサビリティの向上
 2. IUU漁業*の削減
 3. 漁業および水産管理の改善
 4. 現代の奴隷制度を廃止する
- の4項目を優先事項として進めることで合意されました。

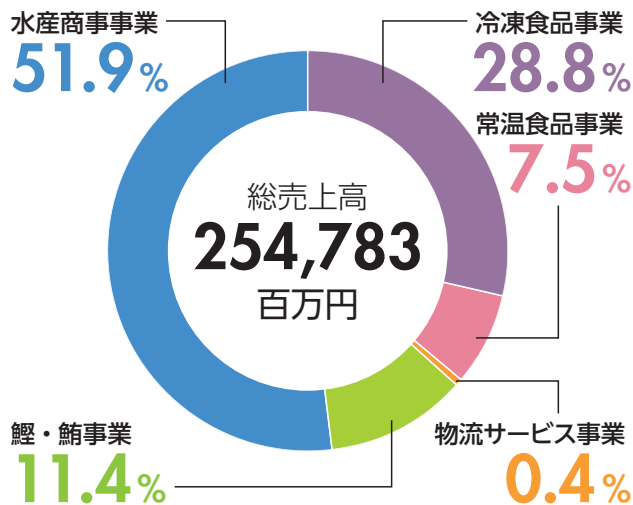
* IUU漁業とは、違法：Illegal、無報告：Unreported、無規制：Unregulatedの漁業を指します。



CSR報告書2017発刊

2017年9月に「極洋グループ CSR報告書2017」を発刊しました。これまでの「社会・環境報告書」から名称を改めることで、より積極的に企業の社会的責任を果たし、社会に貢献していく当社グループの姿勢を読み取っていただけるものを目指しています。

セグメント別売上高構成比

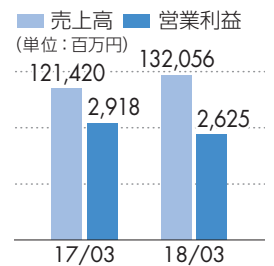


水産商事事業

- 売上高 **132,056**百万円
- 営業利益 **2,625**百万円

国内外の支社、営業所、駐在員事務所、関係会社の相互連携により、世界の海から質の高い水産物を安定的に調達するとともに、切身製品やカニ、エビの剥き身製品などを提供しています。

また、日本国内で漁獲された魚類の輸出や三国間貿易を積極的に行い、水産物の有効利用と資源循環型社会の実現に努めると同時に、魚食のグローバル化へも対応しています。



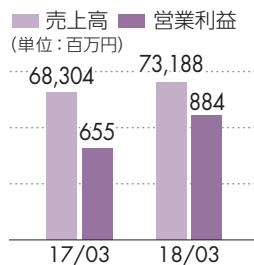
定塩紅鮭フィレ

冷凍食品事業

- 売上高 **73,188**百万円
- 営業利益 **884**百万円

寿司種を中心とした生食用商品を外食チェーンなどへ販売しているほか、業務用加工品「だんどり上手」シリーズなどの加熱用商品を高齢者施設や宅配向けに販売しています。

また、水産フライ類やカニ風味かまぼこをはじめ、畜肉製品や冷凍野菜などを外食ルートや量販店惣菜売場向けに販売しています。家庭用冷凍食品は「シーマルシェ」ブランドを含めて、首都圏を中心に大手量販店での販売が拡大しています。

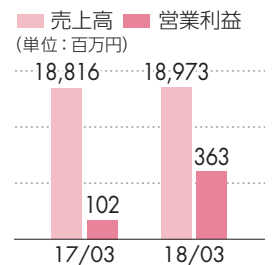


だんどり上手 赤魚みぞれ煮(骨なし)

常温食品事業

- 売上高 **18,973**百万円
- 営業利益 **363**百万円

1949年の缶詰製造から始まった長い歴史を持つ事業です。現在ではサバ、カツオ、イワシなどの魚介缶詰のほか、畜肉缶詰なども取りそろえ、「シーマルシェ」ブランドの商品もラインアップして製品力の強化を図っています。また、グルコサミンやDHAなどの健康食品、海産調味料も販売しています。

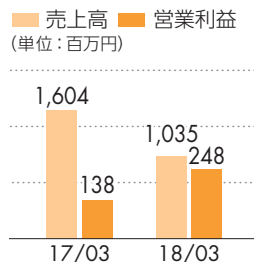


(左)海から生まれたグルコサミン (右)シーマルシェさば煮付(ノルウェー原料)

物流サービス事業

- 売上高 **1,035**百万円
- 営業利益 **248**百万円

冷蔵倉庫事業を中心に東京の大井及び城南島、大阪、福岡の4事業所体制でロジスティクス・サービスを提供しております。

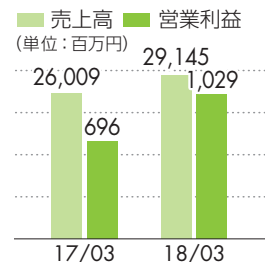


キョクヨー秋津冷蔵(株) 城南島事業所

鰹・鮪事業

- 売上高 **29,145**百万円
- 営業利益 **1,029**百万円

カツオ、マグロの漁撈・養殖から買付・加工・販売までを一貫して手掛けています。カツオについては、当社グループ所有のまき網船「わかば丸」など独自の調達力があります。マグロについては、限りある水産資源の保護と安定的供給のために、四国で養殖事業を展開し、オリジナルブランド「本鮪の極」はお客様から高い評価をいただいています。また、天然稚魚に頼らない完全養殖クロマグロの出荷も開始いたしました。



完全養殖クロマグロ

● **会社概要** 2018年3月31日現在

社名 株式会社 極洋
英文社名 KYOKUYO CO., LTD.
本社所在地 〒107-0052 東京都港区赤坂三丁目3番5号
設立 1937年9月3日
資本金 56億6千4百万円
主要な事業内容 水産物の輸出入・国内買付販売、加工食品及び冷凍食品の製造販売
従業員数 2,257名(連結)／639名(個別)
連結対象会社数 24社

● **役員の状況** 2018年3月31日現在

役員
 代表取締役会長 **多田 久樹** 取 締 役 **木山 修一**
 代表取締役社長 **今井 賢司** 取 締 役 **三浦 理代**
 専務取締役 **井上 誠** 取 締 役 **小畑 一雄**
 専務取締役 **酒井 健** 常 勤 監 査 役 **中山 昌生**
 常務取締役 **芥川 淳** 常 勤 監 査 役 **田村 雅治**
 取締役 **松行 健一** 監 査 役 **上居 隆均**
 取締役 **松尾 達二** 監 査 役 **天利 均**
 取締役 **近藤 茂**

● **株主優待のご案内**

当社は、株主の皆様からの日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式の魅力を高め、当社株式を保有していただける株主の増加を図ることを目的として株主優待制度を実施しています。

株主優待の内容

- 対象株主** ● 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された1単元(100株)以上3単元(300株)未満所有の株主様には、2,500円相当の当社製品を贈呈
- 優待の内容** ● 毎年3月31日現在の当社株主名簿に記載された3単元(300株)以上所有の株主様には、6,000円相当の当社製品を贈呈
- 贈呈時期** 毎年7月予定

● **株主メモ**

事業年度 4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
定時株主総会基準日 3月31日
期末配当金基準日 3月31日
公告方法 日本経済新聞
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電 話: 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

(ご注意)

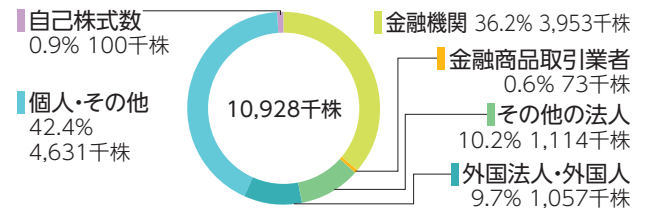
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記載された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● **株式の概況** 2018年3月31日現在

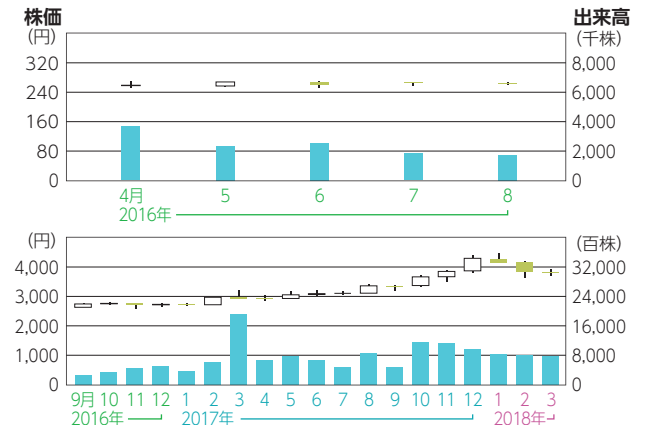
発行可能株式総数 43,700,000株
発行済株式の総数 10,928,283株
株主数 26,975名
大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,671	15.43
株式会社りそな銀行	523	4.83
農林中央金庫	523	4.83
東洋製罐グループホールディングス株式会社	315	2.90
三井住友海上火災保険株式会社	250	2.30
東京海上日動火災保険株式会社	224	2.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	214	1.97
極洋秋津会	164	1.51
中央魚類株式会社	139	1.29
JP MORGAN CHASE BANK 385151	125	1.16

所有者別株式数分布状況



株価及び出来高の推移



※2016年10月1日に株式併合を実施。

WEBサイトのご案内

キョクヨーのこだわりや企業情報、商品紹介、IR関連などの最新情報を掲載しております。また、皆様のご意見やご質問などをお受けするお問い合わせフォームも用意しておりますので、是非ご利用ください。



<http://www.kyokuyo.co.jp>

キョクヨー

検索